



兵
 義
 鑑
 虎
 考
 上

特 別
 ケ 5
 73
 1



門外良人
諸子
卷一



義經虎卷序

氷	語	兮	土	璞	不	密
致	日	藏	中	玉	寒	以
突	鳴	勢	義	久	玄	不
嘗	呼	列	經	日	莫	青
眼	諸	屋	兵	月	踏	陽
下	生	裡	書	兮	白	莫
矣	燒	有	長	埋	雪	見
不	火	客	光	荊	下	紅
堪	溺	相	陰	山	和	花

看ま不レ忍レ聽レ矣や願ねが者ハ公こう深しん
 窓まど之の一いつ卷けん施ほ千せん世ぜ而を以もつ
 救すく於に矢や殤じやう疵し札しやく也や不レ然ぜん
 則すなは如し有あ書しよ不レ教きやう似に有あ田でん
 不レ耕かう予よ荅こた曰い京きやう都と士し人にん
 拱こ手て屈くつ足そく兮や肅しよ幣へい懷くわい金きん
 而を雖すなは求もと書しよ曾そう以もつ不レ免めん矣や
 良よし有あ以もつ也や佛ぶつ法ぽう秘ひ不レ秘ひ

為な真ま女に人にん愧か不レ愧か為な親しん
 所ところ知ち是これ公こう也や客かく又また曰い垂た
 潤うる黎れい元げん行かう其その於に春しゆん臺たい之の
 化くわ不レ大だい有あ桿かん哉や予よ不レ獲かく
 辭じ遂すい鋟しゆ梓し以もつ廣ひろ于に世せ間げん
 矣や欲よく使し這こ般ぱん書しよ謹きん思し之の
 篤あつ行かう之の矣や嘗こ明めい曆れき丁てい酉ゆう
 仲ちゆう春しゆん勢せい刈せき渡た會かい浮ふ萍へい叙しよ

義經よしのり虎卷こまき序しり畢はつ

虎卷こまき目錄もくろく

第一いち軍ぐん場ば出い作さ法はふ事じ

第二に敵てき打う行ゆ時とき酒さけ飲の作さ

法はふ之の事じ

第三さん軍ぐん神かん勸くわん請じやう隨ずい事じ

第四し敵てき打う不ふ顯けん秘ひ術じゆつ事じ

第五ご旗はた指さ落らく馬ば善ぜん惡あく覺かく

知し事じ

虎卷こまき目錄もくろく

第六 旗竿折付善悪覺

知事

第七 軍神勸請時聲作

作法之事

第八 軍神送時聲作々

法之事

第九 弓折不吉吉事知

事

第十 甲冑箭不融秘術

之事

第十一 普通太力刀中

有性劔見出秘術

之事

第十二 魔縁者切秘術

之事

第十三 太力仕秘術事

第十四 強馬シマ 靜軍シヅクン 乘秘ノリヒ

術之事

第十五 弓箭ユミヤ 性付セイツ 秘術

之事

第十六 敵魂テキタマ 抽取トウシュ 秘術

之事

第十七 敵噤テキシム 太刀タチ 鉾ホ 不フ

仕事シセ

第十八 敵隨テキス 寬秘カンヒ 術事

第十九 敵術テキジュツ 窺ウカ 覺知カクチ 秘ヒ

術之事

第二十 中ナカ 友不トモフ 逢アヒ 秘術

之事

第二十一 敵被テキヨ 取トル 籠陳カゴチン 内ウチ

遯出ソノデ 秘術ヒジュツ 之事

第二十二 敵隱テキカク 思時オモトキ 可カ 隱カク

秘術之事

第廿三 敵てふ打う行ちやう安あん不ふ安あん

覺知秘術事

第廿四 敵てふ為なる不ふ敵てふ秘術

事

第廿五 敵てふ合あ戰せん共とも疵きず不ふ

蒙秘術之事

第廿六 疵きず蒙まう可べ善ぜん事こと有あ

疵蒙大小任心秘術

之事

第廿七 生せい膚ふ物もの具ぐ為なる仕し

敵向共無其怖秘

術

第廿八 一人ひとり千せん万まん驕おごり敵てふ

遇無其怖秘術之

事

第廿九 敵射相箭種盡

天笑儲事

第三十 敵打合時太刀長

刀折其替儲秘術事

第卅一 敵為火中被責

入其火難遁秘術

事

第卅二 敵為水漂其水

難可免秘術之事

第卅三 敵火責秘術事

第卅四 敵引結時太刀

腰刀閉不拔出秘

術之事

第卅五 其身大將軍兵

可退時尅知事

第卅六 軍勝負早速秘

術之事

第卅七 敵疵不付打秘

術之事

第卅八 毒箭被射治秘

術之事

第卅九 軍兵隨秘術事

第四十 我可守兵具可

見秘術事

第四十一 神通弓作事

第四十二 神通箭作秘

術事

後付

檀作法之事

伐々拘之事

四十二ヶ茶印圖之事

義經虎卷目錄終

兵法秘術一卷之書

黃石公授子房公之書也

這房婁授源義家和田能春

從二位中納言兼左大臣大江山房

友張良一人の神孫也

屢と内々心なれ心さしと

かんしては一卷乃ちと授け早

然して項羽と高祖也合戦

唐書 上 二 言

の対項羽の軍はくくしてきて祖
とひくうらわさる向張良この
ちとる祖めをくもわくえ
程なくそれ軍ふうら勝せ成
らわ國と法めふ三天の海と捷
て海の政を物給ひくここれあ
ぬあり黄石公ハ名摩利支天
の業路なる子房公ハ妙見業

薩の地現ありは是るをまらん松
このち子阿まころ吳説なりわ
くの四六輪とこれ無法一石の云
云云人素書へく張良一卷と
ふ又三器をふくは一卷と稱
をや云或ハ武道と云いも実
母ころみらにわくハ長とある
秘術あり或ハ政及なりといひ

虎巻 止 言

て勇武^{ゆうぶ}なたるみる人^{ひと}きき^きを^をし^して
—は^はま^まい^いみ^みる^る真^ま実^じ無^む法^{ぽう}と^と誓^{ちか}
く^くん^ん子^し知^ちし^しの^のん^んう^うこ^こめ^めなる^るこ^この^の
去^こ昔^こ朝^あへ^へも^もり^り始^はり^り半^{はん}人^{じん}王^{おう}十^{じゅう}五^ご
代^{だい}の^の皇^{こう}帝^{てい}神^{しん}功^{こう}皇^{こう}高^{こう}元^{げん}年^{ねん}肆^し
履^り陶^{とう}公^{こう}と^とま^ま人^{じん}異^い朝^{てい}り^り傳^{でん}来^きあり
—う^うん^んそ^その^のら^らら^ら門^{もん}こ^この^のま^まと^とん
て^て新^{しん}羅^ら百^{ひゃく}濟^{せい}國^{こく}ま^まて^てう^うら^らま^まし^しう^う

あ^あふ^ふあ^あり^り帝^{てい}崩^{ほう}濟^{せい}の^の阿^あ太^{たい}子^し應^{おう}神^{しん}
天^{てん}王^{おう}母^ぼ傳^{でん}へ^へあ^あふ^ふて^て皇^{こう}始^はり^り秘^ひ
か^かは^はり^りめ^めて^てせ^せめ^め始^はり^り—う^うあ^あま^ま
と^と極^{ごく}き^きう^うこ^こめ^めも^もや^や落^{らく}ち^ちる^る人^{じん}者^{しや}才^{さい}
の^のう^うら^らめ^めの^のみ^みか^かさ^さめ^め末^まれ^れせ^せめ^めく
と^と國^{こく}の^の守^{しゅ}民^{みん}力^{りき}變^{へん}と^とあ^あさ^さん^んと^とて^て春^{はる}
給^{たま}り^りそ^その^のら^らは^は書^{しよ}世^よ小^{せう}絶^{ぜつ}不^ふ傳^{でん}
こ^この^のあ^あめ^め八^{はち}橋^{きょう}大^{だい}美^み蔭^{いん}と^と軍^{ぐん}神^{しん}

新羅百濟國
九

と称し播くら漢の神も付
まのこのあありを人王六十
代の皇帝磁磁天王の清宇清
平あり一吾國あり一今世
小終ふみと興一ありといふ
終より平を欲きおほ一ありて大
江の維時外あり一ありて大
の宰相あり一あり砂金十萬あり

相吳國一ありあり長元
年五月十三日己未もつる清
西のくく一あり清小敵同八月上旬
よ後唐ありありの砂金十萬ありと
万ありと一帝王ありありこれありと
ありもんありありありありあり
とありありありありありありあり
ありありありありありありありあり

唐書 卷一百一十一

の令を統ぬむ公女授我胡朱蔭院
乃所字張平口甲年正月廿日
海胡きしやわこれる熱して胡
家の重宝名當家のを半う
てお侍子取あわさるるを東夷の
路起乃同殊尋のこめ小源義家
勅と下れ教向の何秘術と侍
へきよしを秘んころめあらしとそ

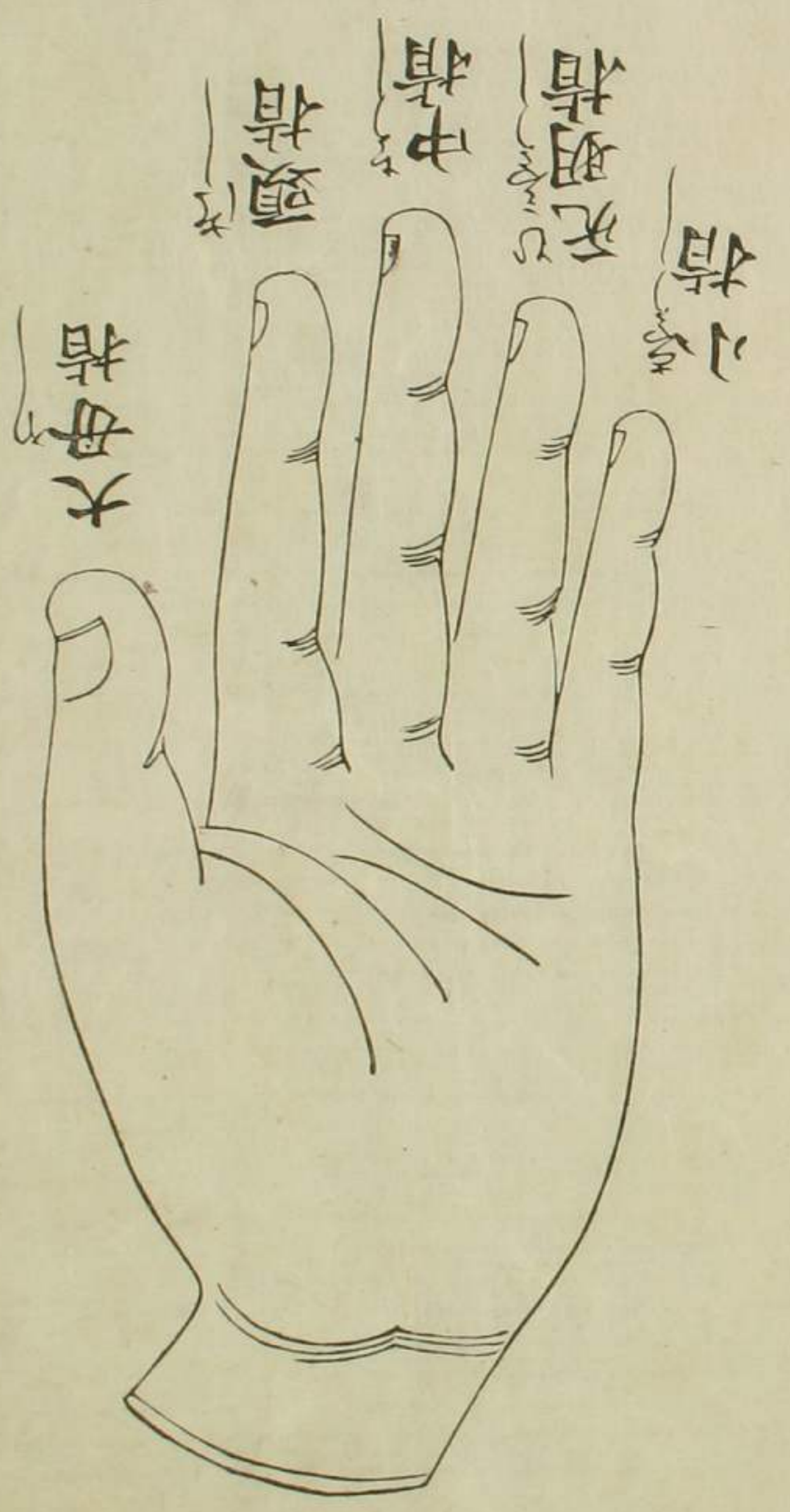
のいふれあわさるるも極しころし
あいたくひくまきの同天葵と張
く天氣みよわて男ハ情まよ
てお侍るまきよしを領解を心記
義の家をて向愚力細少しわらる
の家おしましむ共杖を半と
武藝を前やす向めりて愛者
の勅とれうし加小漢國漢字

虎之巻
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

兵法秘術一卷序終

虎之巻

二巻





於一軍場出作法之幸
 敵をうらみぬ川時時言ふと志
 らせむひそくよ東ふじうひく
 たのふと巻めてたの腰り
 空存のふと施す母めて二度
 うつ勝とてまの真言と七
 色氣りきくしめ用さよ

字嘯黑担宅吠梨耶茨頓

は神呪とてそのまじりハ神天を来
りてこの人乃甲胃のひこく
めとに入ると歌とち路ほ
昔酒をみらるとくへくは
り勝半と得さくじき也
才二敵折行時酒飲化
法之半

飲うらみけ時必酒のひ角一打
馳こ下粟とさうまめとへ
先懸みみ入あうらやの葉
とふく南方めじみさじく
毎一その額文ふさく及この
歌とうら馳れ歌とららわ
け勝利と者ハ飲この越神因見
その真言め白

神と巻めて燈の
あさり



方あ婆ん婆あ奈あ宇う坦え會あ苗る茨う嶺か

きそらら 蛇へびとひらみうら
 ら 粟あわとちめをさこく 食たを
 あわとのうら 蛇へびと食たをふやう
 ほらきういよわ 食たをふやう
 ぱりめて 軍いくさめじうふを強こき
 あなはらうらうらうら
 心こころひらうらうらうらうら

しあわがりのとくすまはの軍
みうの半と必得りあわ

才三軍神勸誘之半

兵具をそれへ引矢を帯

てもそのひひさうきさか

とすおち右のふとゆ

ひまひく右の勢力を置る度

去来して良のこにひまひく

南せの万八子の軍神来條新四護

持と雲給へこの神呪を

三廻唱へよ

阿利駄尾担善箭縛羅陀水

色陀羅茨頃

その町九万八子の軍神をのく

為内み来入して護持し守護

しあふその軍神来入した



まひかり 瑞相とあはれ 平一 壺燈と
 ひろわり 又ハ何ぞもくも 前をじ
 新うわ 飛あわり 軍神入来
 終ふ 瑞おすわあ の時力からく 心
 活よく 力けく とうわ 本をあらう
 一 熱して 勇猛 強かありて
 神通の 一 軍神 弁才 肉一
 来入を 心故あわ



南謀

才てき口くち敵てき打う不ふ頭あたま秘ひ術じゆつ之の平へい
 南なん方かた女め棚たなきよこ二ふた尺ぶちよひひくそ
 のうゆ腰こしを押おせざん志こころと体ていまろ
 なるをさそそのうちこの神かみ呪まじと女
 一ひと盃さかずき海うみせよ
 南なん謀まう波なみ利り竭くつ帝てい叫こゑ茂もう須す
 この真まこと言ことばと唱なまくた右みぎれも清きよ
 すくにりり筋すぢく申まを指さしと女め

軍てこの神呪を唱よかれとく
しそのらハつるあは陳の前よそ
なうらしてそ都く幸あ

才又旗指之落る善忠と

覚知之幸

軍陳へいづくかふ時旗さ一の
るより落る幸あ徳く善忠と
ちの幸たなりく入はらるるを

愚幸あり存のくく入あは八善
本ありそのあふいと善本り
あは本たのもとむあひくあ
うよ存のよとあ体のひく幸
とけくせく指とをれくあひ
くみうらあくとあまくと導法輪
中らあはくこの神呪あ白
空盡駄羨坦羨坦莎賀



この真言とてぬ唱へハ忠奉に
 み還くよるしひめあは軍ふ勝
 奉とうはるわ

才六旗竿折あ付て善悪
 覚知之奉

旗竿の切らわ折らばハ忠奉
 あら末よりわはれ家ハ異あらり
 なりその切らわ折らば時を必



其のひの軍おうしあはわう
 きとらうゆふ平たのよと以
 て胸の敵子仰て中をぬく
 わめく長とおして三度抄ふ
 ふやうめしてこの神呪を百
 遍

虎巻上

虎巻上

十



空陀 靈々婆羅啼 莎質

この神咒を唱ふハ 忽ちよろこび
あふなるま

才七 軍神勸徳之時化
法之半

軍神勸徳の時化りやハリ
ほろくわらけよに化ふあり
そのちと矢の滴矢を陳へり

くはありその神呪も曰 普下
 字 天吠耶那増陀盡茨頃
 普通ぬハ只時けりてと悉と
 不半とくわちりてこの神呪とふ
 新ぬ負ふなり

才八軍神送時化く法之
 幸

その時けりやうハくめは

おとちよりく南方ぬじりひてはく
 不半三度ぬてこの神呪と唱
 了

字 都駄嚙々叫悉地々茨頃
 軍ぬらしてりら軍神むふ
 時けり系時の法ぐれとく初
 と外へひく三度及悉と
 右のふと悉ぬて頭指とぬ



虎巻

て少掾の血のぢりごとくしてまゝ
 せしむる

才九弓折不意に幸無之

幸

敵うらみおけり時持ておろれむ
 是事わわされぬくまふふ
 色わわりき事わわされ
 さしわわふ事よさらむら下

虎巻

十三



の身了はハ不^{まじ}あらわ^らら
 ことあ^らは^らは^らは^らは^らは^ら
 り^らは^らは^らは^らは^らは^ら
 り^らは^らは^らは^らは^らは^ら
 大^らの^らの^らの^らの^らの^ら
 右^らの^らの^らの^らの^らの^ら
 く^らす^らの^らの^らの^らの^らの^ら

七色唱へよ

空ろ盡支駄嘯 茨嶺

あわ平へる轉へて 荻本へる

あわらうらわ法りさるあさみ

は神咒とてに満ちてうらみ

さあふる

才十甲 曾不透 矢秘術

之本

たねの大方へ中へひき

しとてとて少指野指との

く登たの少へお存の少指

うらまへひ三度うらうこ

は神咒と偈了款のいふ矢あ

うきさへ甲曾と不透あわ

の真言お



空那坦陀吠羅茨嶺

才十一普通之太刀刀之

中至性之劍見出秘

術之幸

為考の太刀初こま乃中より
有性の劍と乃至と幸ハ有の
小指之明指の飛乃うと大母
一此指よてと一て中一



此一のあくすめあきと
 この大形かきあよひく振
 へ一さ系時大形くさひ系
 毎一甲のあつこまは心と
 一その時を信の級とあり
 て守あうりてまへ一その級
 ちよて三度振く時の律記小
 日



南無阿羅地 劔靈那啼 莎須
才十二 魔縁者 切秘術

之幸

魔取人 幻變化 不思議も
のどろくす げきふ 幸いある
武ものも その秘術をさるり知
てハ ありきりり 先太刀
の月 焚とや かりみて せむと 成

一七 抄へ — — 三三 阿を 左へ 授
 子 神 呪 ぬ 回 普 呪
 字 羅 蜜 都 婆 阿 路 婆 帝 那 永 茂
 頌

鹿 卷 上 終

